

○調査研究課題名 「資金配分機構の国際的比較分析とその在り方」  
○代表者名 「平澤 洽 （東京大学名誉教授）」  
○中核機関名 「（財）政策科学研究所」

## 調査研究の目標・概要

### 1. 目的・目標

競争的資金配分機構の国際的比較分析を行い、我が国の資金配分機構の在り方についてまとめる。ここで用いる「資金配分機構」とは、競争的資金配分に係る機関、組織、そして制度のことを意味する。競争的資金の受容者は主として大学であるが、国立大学の法人化に伴い、資金配分機構の見直しは必須であり、その在り方が問われている。また競争的資金総量の倍増が唱われており、競争的資金配分の効率的運用が望まれている。このような観点から、本調査研究では、比較機構論の手法により、我が国の競争的資金配分機構の在るべき姿と改善点についてまとめることを目標とする。

### 2. 内容

#### (1) 競争的資金配分機関、組織、制度に関する実態的調査

我が国を含む主要国（日、米、英、独、仏）の他に比較対象国として、スウェーデン、オランダ、カナダ、オーストラリア、韓国、中国を選び以下の諸点について調査する。

- ・競争的資金配分機関や組織の行政組織上の位置づけ
- ・公的資金の受容側機関（大学、公的研究所）の位置づけ
- ・競争的資金の主要な流れ（含民間企業等）
- ・競争的資金配分制度のカテゴリーとその位置づけ
- ・競争的資金配分制度における評価法
- ・競争的資金充当課題の特徴
- ・競争的資金配分機関や組織に併設されている資金配分以外の機能

#### (2) 競争的資金配分機関、組織、制度の比較分析

次の視点から比較分析を行う。

- ・国全体の統合性の在り方とN I Sの特徴、ないし欠陥（「死の谷」）
- ・資金配分機構に内在する合理性とその効果
- ・資金配分機能の他に併設すべき機能とその意義

#### (3) 我が国の競争的資金配分機関、組織、制度の在るべき姿と改善点

上記の比較機構論による分析を踏まえ、我が国の競争的資金配分機構についての含意をまとめる。

### 3. 実施体制

中核機関は、本課題の構成・関連内容に関する研究蓄積と研究者ネットワークをもつ。とくに本課題は、科学技術振興調整費受託『海外主要国の科学技術政策形成実施体制の動向調査』

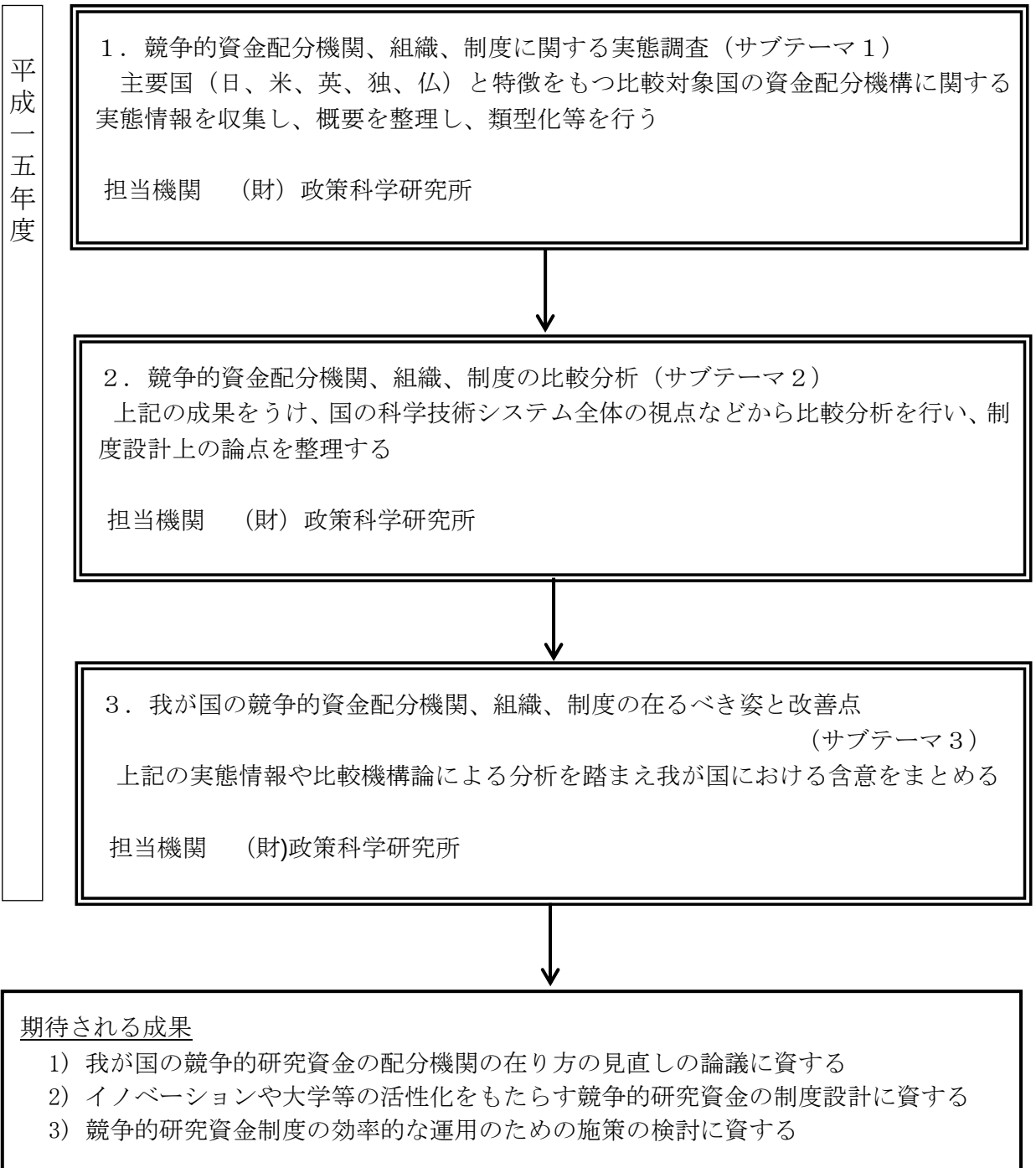
（平成10年）などの成果の上に展開できるものである。また、推進委員会は、国内外との研究者ネットワークのノードとして機能するように設定する。

## 調査研究の成果がもたらす効果

- 1) 我が国の競争的研究資金の配分機関の在り方の見直しの論議に資する
- 2) イノベーションや大学等の活性化をもたらす競争的研究資金の制度設計に資する
- 3) 競争的研究資金制度の効率的な運用のための施策の検討に資する

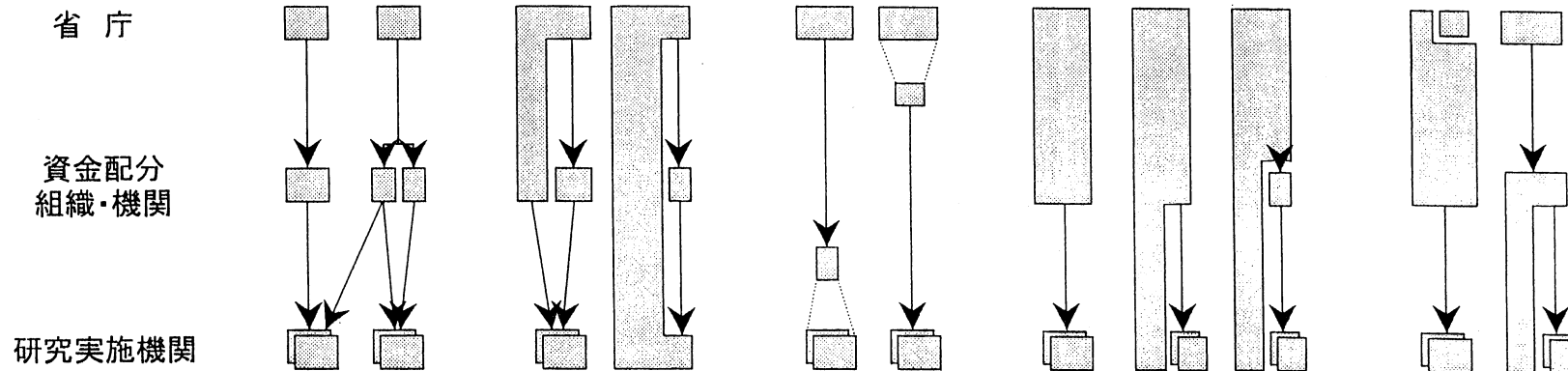
## 実施体制

- 調査研究課題名 「資金配分機構の国際的比較分析とその在り方」  
○代表者名 「平澤 洽 (東京大学名誉教授)」  
○中核機関名 「(財)政策科学研究所」



# 競争的資金配分機構イメージ

《主要国（日米英独仏）》、《比較対象国（スウェーデン、蘭、加、豪州、韓国、中国）》



## 課題内容

### (1) 競争的資金配分機関、組織、制度に関する実態的調査

- ・ 競争的資金配分機関や組織の行政組織上への位置づけ
- ・ 公的資金の受容側機関（大学、公的研究所）の位置づけ
- ・ 競争的資金の主要な流れ（含む民間企業等）
- ・ 競争的資金配分制度のカテゴリーとその位置づけ
- ・ 競争的資金配分制度における評価法
- ・ 競争的資金充当課題の特徴
- ・ 資金配分機関や組織に併設されている資金配分以外の機能

### (2) 競争的資金配分機関、組織、制度の比較分析

- ・ 国全体の統合性の在り方とNISの特徴と課題
- ・ 資金配分機構に内在する合理性とその効果
- ・ 資金配分機能の他に併設すべき機能とその意義

### (3) 我が国の競争的資金配分機関、組織、制度の在るべき姿と改善点

我が国の競争的資金配分機構についての含意のまとめ

（論点）

- ・ 法人化国立大学への競争的資金配分機構の在り方
- ・ 我が国のNISからみた競争的資金配分機構の課題と展望
- ・ 競争的資金配分制度の効率を高めるための改善点・あるべき姿